

# SPECIAL RACING BUGGY

# SAND SCORCHER



1/10th SCALE MODEL CAR SUITABLE FOR RADIO CONTROL

1/10ラジオコントロールカーワゴン・オフローダー



TAMIYA PLASTIC MODEL CO. 628, OSHIKA, SHIZUOKA-CITY, JAPAN.

1/10

R/Cワゴン(40)



# RACING BUGGY SAND SCORCHER



## 〈オフロードレースの人気者、ワーゲン〉

世界の自動車ファンに広くその名を知られた操作大変事、フォルクスワーゲン。全体的に大味を帯びたスタイルは、ビートル(かぶと虫)と呼ばれて親しまれています。高性能スポーツカーとして知られるポルシェの生みの親、フェルディナンド・ポルシェ博士によって作られ、第2次大戦後の1945年から本格的に生産開始。77年にドイツでの生産が中止されるまで、実に30年以上も渡って作り続けられてきたのです。エンジンは空冷水平対向4気筒をリヤに搭載。そのまま、リヤタイヤを駆動するリヤエンジンリヤドライブ方式を採用しています。そして、トーションバーを使用した独特な4輪独立のサスペンションを装備。それらメカニズム的な面もさることながら、フォルクスワーゲンの高い経済性とすぐれた耐久性、そして、耐久性の良さといった特徴を持っていたことが、人気の秘

密と言えてしまう。

まさに、その名の通り『国民車』としてドイツ国民はもちろん、世界の人々に愛される車となったフォルクスワーゲンは、レースやラリーなど、さまざまなモータースポーツにも登場しています。そのエンジンとトランスミッションを利用してフォーミュラVee(ビー)と呼ばれるレーシングカーも作られました。中でも、フォルクスワーゲンが最も大きな活躍をしているモータースポーツに、アメリカを中心に行なわれているオフロードレースがあります。フラットフォーム型のシャーシや各部のじょうぶな作り、大径タイヤ装着による大きなロードクリアランスなど、オフロードレースによく適した特徴を持っていました。また、構造が単純で改造しやすいということもあり、オフロードレースには、中心的な車となっています。ほとんどノーマルのものからエンジン以外は別物と

いったものまでいろいろですが、中でも有名なものは、『バハ・バグ』という名で知られるオフロードレース用改造車。ワーゲンオフローダーでしょう。普通のワーゲンのイメージを残しながら、大改造が施されたオフロードカーで、アメリカのオフロードレースではクラス5に属しています。エンジンやサスペンションは数多くのチューニングショップから発売されているパーツで強化され、ボディはフロントノーズをショートカットし、エンジンフードも冷却効果を高めるため取りはずすなど、大改造。太いオフロード用タイヤ装着により、ユーモラスなスタイルを彩作っているスーパーワーゲンです。メキシコのカリフォルニア半島を舞台に繰り広げられるバハ・インターナショナルや、ネバダ州で行なわれるミント400マイルなどのオフロードレースでは、今後も主役の1台としてますます活躍を続けるに違いありません。

## ラジオコントロールメカについて

〈2チャンネル・デジタルプロポを使います。〉  
このバギーの操縦には、2チャンネル・デジタルプロポシヨナル(2チャンネル・プロポ)方式のラジオコントロールメカニズムを使用します。標準的な2チャンネル型メカニズムならばほとんどのメーカーのものが使えます。ただし2チャンネル型でも一部の機種、および3〜8チャンネル型の場合、受信機などのサイズによって使えない場合がありますので御注意下さい。

★ラジオコントロールメカは各メーカー付属の説明書を参考に取扱いをして下さい。

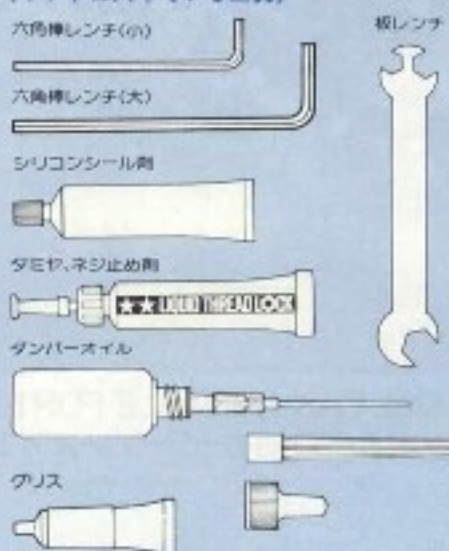
7.2Vタミヤカドニカ  
バッテリー専用  
急速充電器



### 〈組み立てに必要な工具〉

★キットには、板レンチ、六角棒レンチ大、小、両面テープ、ダンパーオイル、シリコンシール剤、ネジ止め剤、グリスが入っています。

### 〈キットに入っている工具〉



### 〈別に用意する工具〉



棒ヤスリ  
甲ヤスリ



★この他にピンセット、ボックスドライバー、セロファンテープ等があると便利です。

### ★タミヤオイルスプレー

グリスと共に駆動部に注油する為にご用意ください。タミヤから売れた潤滑剤として、タミヤオイルスプレーを発売しています。このタミヤオイルスプレーは浸透力が強く防水性もある高耐久の潤滑剤としても有効です。スプレー式ですから手軽に使用することが出来、性能もよく走行用モデルにはうってつけのオイルスプレーです。

### ★タミヤネジ止め剤

キットにタミヤネジ止め剤がセットされています。ビスナットのゆるみを防ぎ部品の落ちるのを防ぎます。因中、ネジロックマークのついたビスやナットに使用して下さい。

### ★タミヤセメント

タミヤから、液状のプラスチック専用接着剤、タミヤセメントが発売されています。小さな部品の結合にも使いやすく、又容量も40ccとお徳用になっています。ぜひ一度お試し下さい。

プラスチック専用接着剤  
タミヤセメント



### 〈塗装〉

塗装は、モデルの仕上りを決める重要なポイントです。15ページの説明をご覧になってカラフルな塗装をお楽しみ下さい。

### ★タミヤカラー

ボディ塗装には、スプレー式タミヤカラーが手軽で便利です。ボディの標準塗装色が用意されています。細部塗塗には筆塗り塗料、バクトラタミヤカラーが発売されています。塗装説明のページで使われるカラーを参考にして下さい。

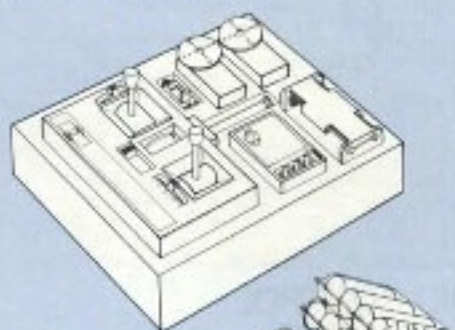
筆塗り塗料  
バクトラ  
タミヤ



スプレー式  
タミヤカラー

## 別にお買い求めいただくもの。

### 〈2チャンネルプロポ〉



### 〈プロポ用電池〉



### 〈走行用電池〉



タミヤカドニカバッテリー7.2Vは、1200ミリアンペアのバック式ニッケルカドミウム電池です。独自のタブレス方式を採用して放電特性がよく、すぐれた加速力など、高性能を誇ります。くりかえし300回以上使えて経済的です。充電は家庭用100Vコンセントから行う14〜16時間充電器と自動車のシガライターから15分で充電できる急速充電器があります。







#### 4 (モーターのとりつけ)

モーターをとりつける前にギヤにオイルをさしておきます。



タミヤオイルスプレー

(使用する金具、小物原寸図)

(金具プリスター、メタル袋詰より)



オイルレスメタル  
×2

(ビス袋詰Bより)

(ビス袋詰Aより)



3φ×18ソケットボルト ×3

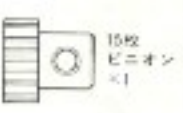


5φ×5イモネジ ×2

#### 5 (ドライブギヤのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

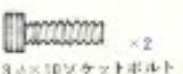
(ビニオン袋詰より)



(シャフト袋詰より)

ストッパーピン ×1

(ビス袋詰Bより)



3φ×10ソケットボルト ×2

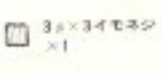


3φ×8ソケットボルト ×3

(ビス袋詰Cより)



3φワッシャー ×1



3φ×3イモネジ ×1

#### 6 (ロールバーのくみため)

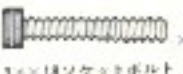
(使用する金具、小物原寸図)

(金具プリスターバックより)



パイプジョイント  
×4

(ビス袋詰Bより)



3φ×18ソケットボルト ×2

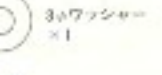


3φ×8ソケットボルト ×1

(ビス袋詰Cより)

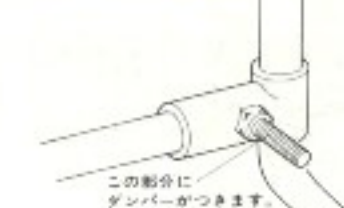


3φロックナット ×2



3φワッシャー ×1

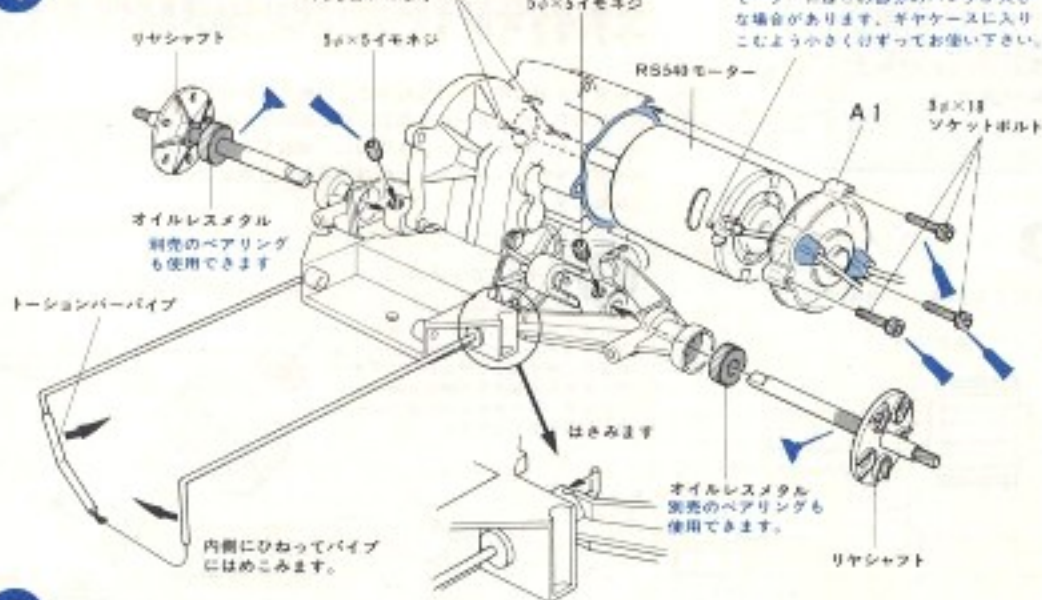
(パイプジョイント取付図)



この部分に  
ダンパーがつかます。

#### 4 モーターのとりつけ

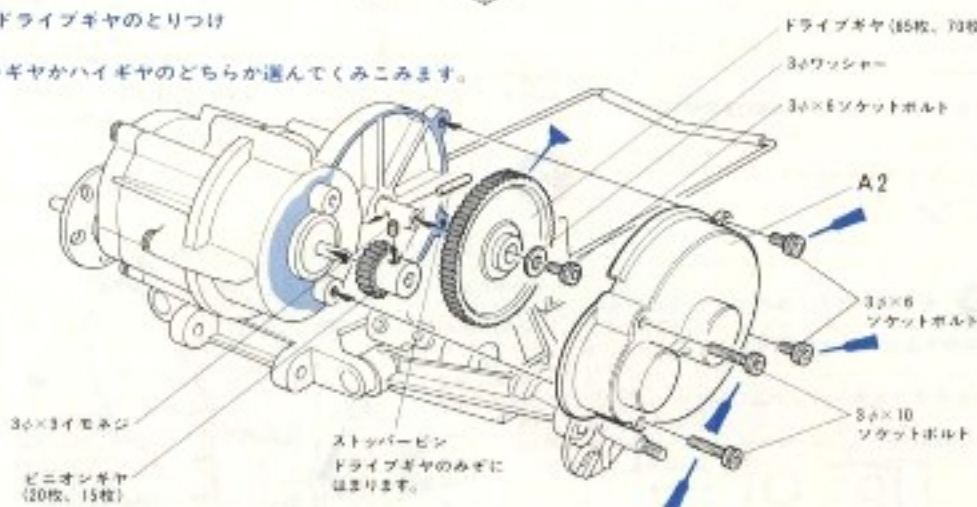
ギヤケース内のピンとモーターの穴を合わせます



★モーターを交換なさるとき、市販のモーターにはこの部分のハンダが大きい場合があります。ギヤケースに入りこむよう小さく削ってお使い下さい。

#### 5 ドライブギヤのとりつけ

★ローギヤかハイギヤのどちらか選んでくみこみます。

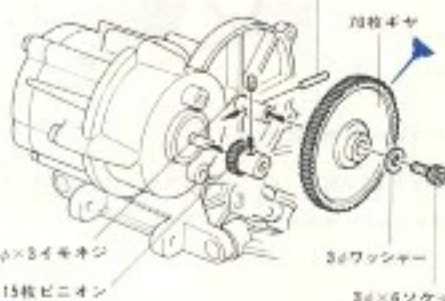


(ローギヤ) (ラフロード向き)

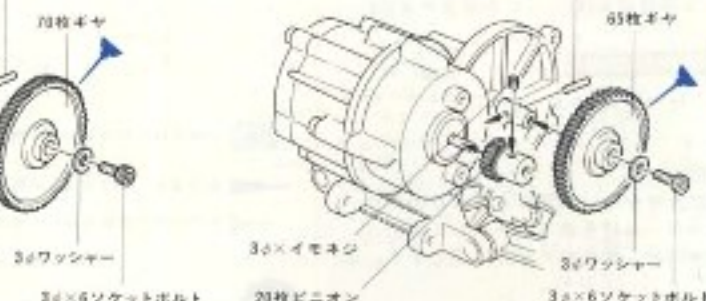
ストッパーピン

(ハイギヤ) (平組路向き)

ストッパーピン



3φ×3イモネジ  
15枚ビニオン



3φワッシャー  
3φ×6ソケットボルト  
20枚ビニオン

3φ×10ソケットボルト  
3φ×6ソケットボルト

#### 6 ロールバーのくみため

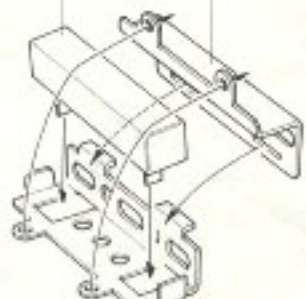
(ロールバー)

★パイプジョイントは牢固のようになります。

ロールバー

(クーリングボックス)

セメント板状 クーリングボックスB (工具袋詰)



クーリングボックスA (工具袋詰)

アンテナポスト (ビニオン袋詰)

3φロックナット

パイプジョイント

3φワッシャー

3φ×6ソケットボルト

3φ×18ソケットボルト

3φロックナット

リヤガード

パイプジョイント

3φワッシャー

3φ×6ソケットボルト

3φ×18ソケットボルト

3φロックナット

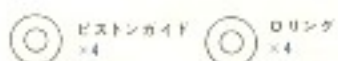
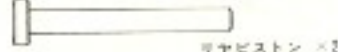
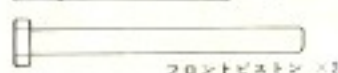
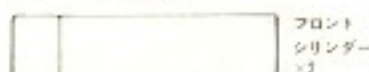
リヤガード



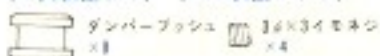
**7** 〈ダンパーのくみため〉

(使用する金具、小物原寸図)

(ダンパー袋詰より)



(工具袋詰より) (ビス袋詰Cより)



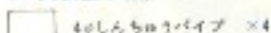
(ダンパートップのしめ込み)

シリコンシール剤をつけ、下図のようにして強くしめ込んで下さい。ダンパーのオイルもれを防ぐために、効果があります。

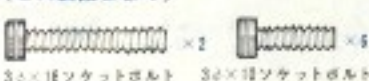
**8** 〈ロールバーのとりつけ〉

(使用する金具、小物原寸図)

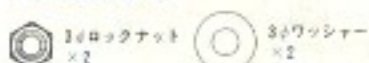
(工具袋詰より)



(ビス袋詰Bより)

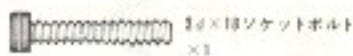
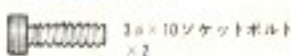


(ビス袋詰Cより)

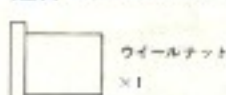
**9** 〈シャーシーのとりつけ〉

(使用する金具、小物原寸図)

(ビス袋詰Bより)



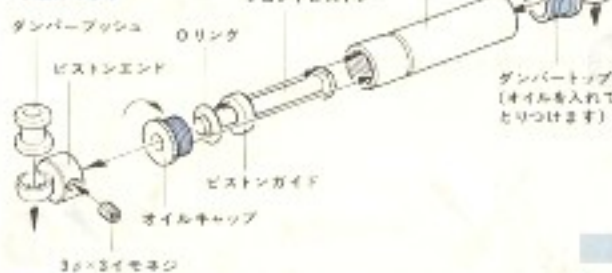
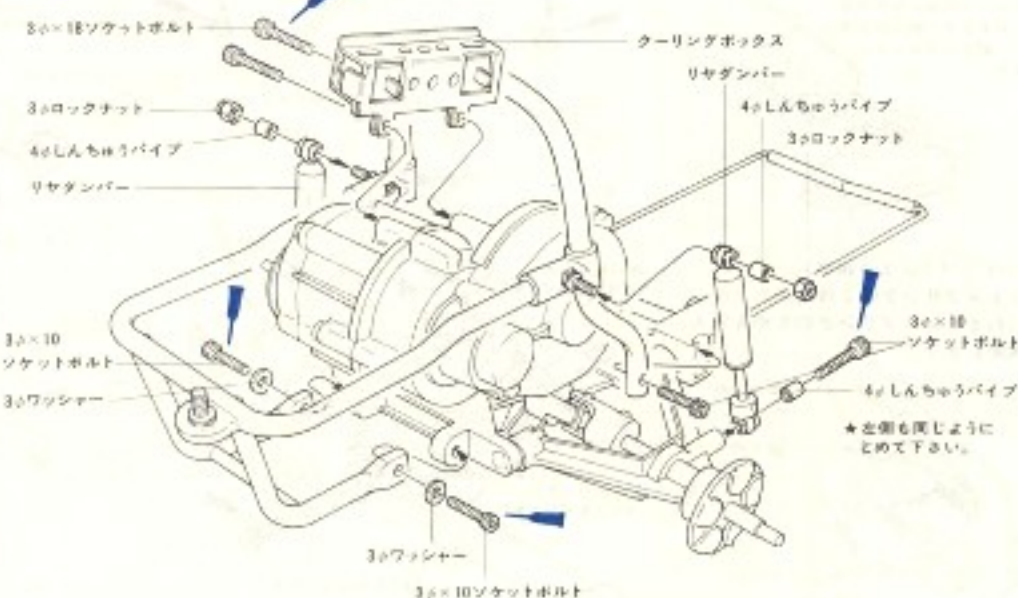
(金具 プリスターバックより)

**7** ダンパーのくみため

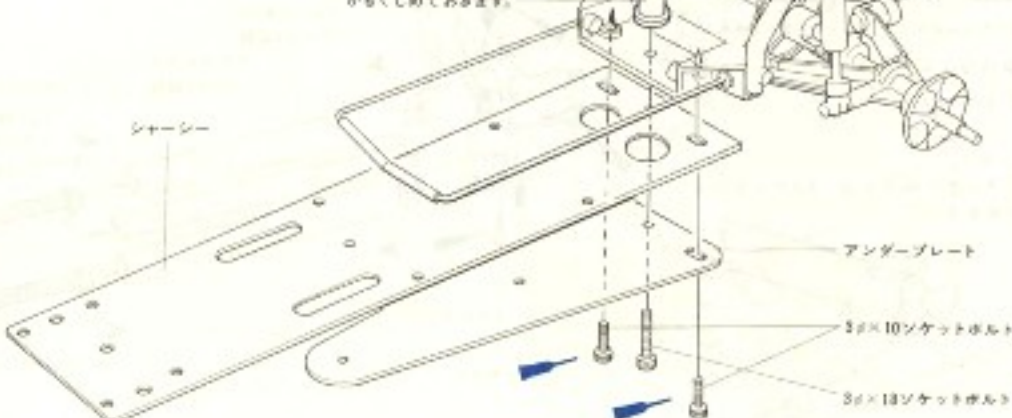
(リヤダンパー) 2個作りませ



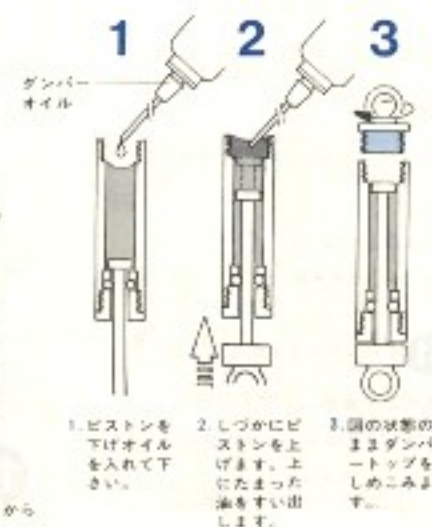
(フロントダンパー) 2個作りませ

**8** ロールバーのとりつけ**9** シャーシーのとりつけ

ギヤケース    ウィールナットをからくしめておきます。



(ダンパーオイルの入れかた)



★あふれたオイルはふきとって下さい。

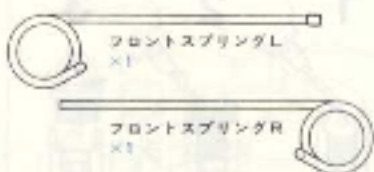
- の部分にはシリコンシール剤を塗ります。
- ▶の部分にはネジ類はネジ止め剤を塗ります。
- ▶の部分には必ず注油又はグリスをさして下さい。



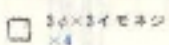
## 10 (フロントアクスルのくみため)

(使用する金具、小物原寸図)

(トーションバー装着より)



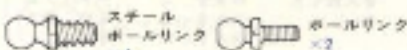
(ビス装着Cより)



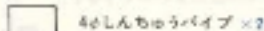
## 11 (アップライトのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

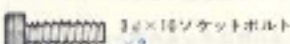
(金具プリスター、メタル袋詰より)



(工具袋詰より)



(ビス袋詰Bより)



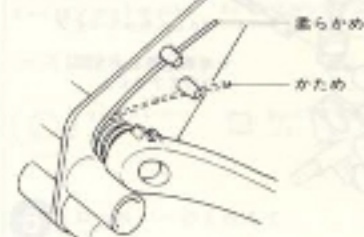
(ボールシートのグリスアップ)

ボールシートの中にグリスを塗っておきます。耐久性が良くなり、動きもスムーズになります。



(フロントスプリングの調節)

フロントスプリングは2段にかたさがかえられます。スプリングのどめを変えて調節します。



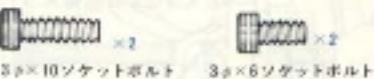
## 12 (フロントメンバーのくみため)

(使用する金具、小物原寸図)

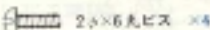
(工具袋詰より)



(ビス袋詰Bより)

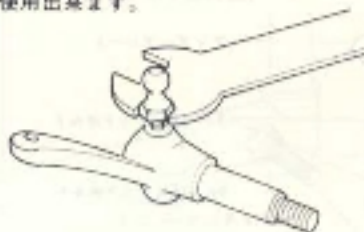


(ビス袋詰Dより)

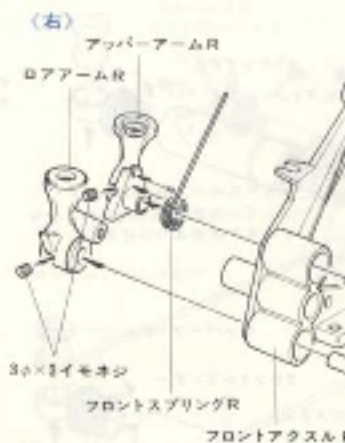


(板レンチ)

2φナット・ボールリンク・3φナットに使用出来ます。



## 10 フロントアクスルのくみため



(左)

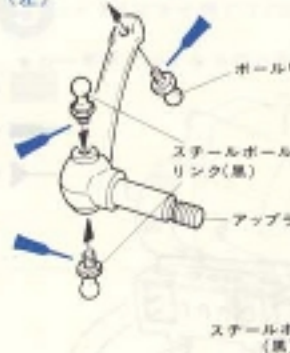


この部分には必ず注油して下さい。  
はネジ止めの後にネジロックします。

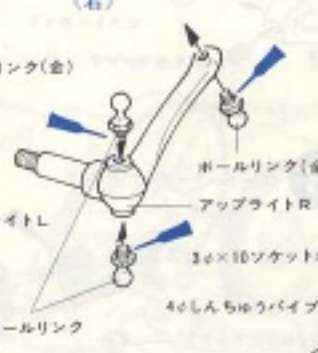
## 11 アップライトのとりつけ

(アップライト)

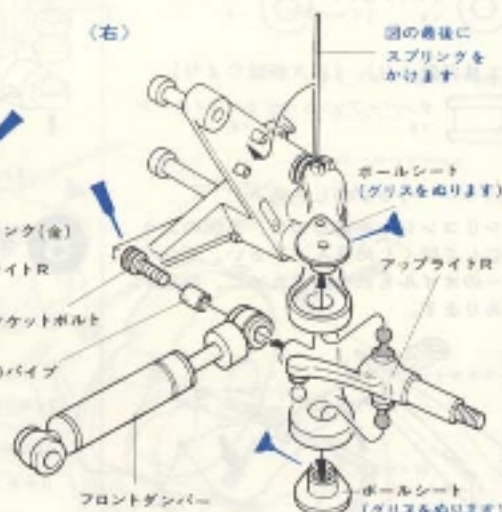
(左)



(右)



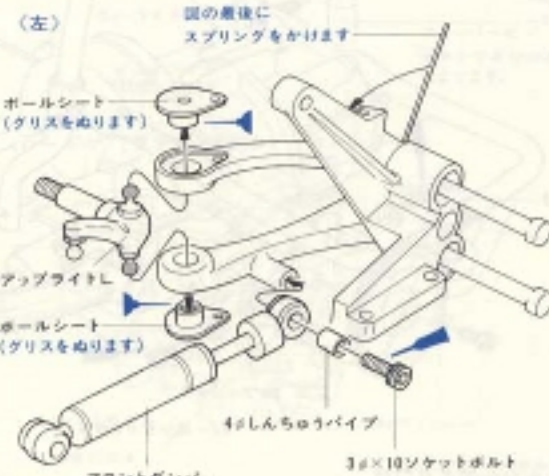
(右)



(ボールシートのとりつけ)

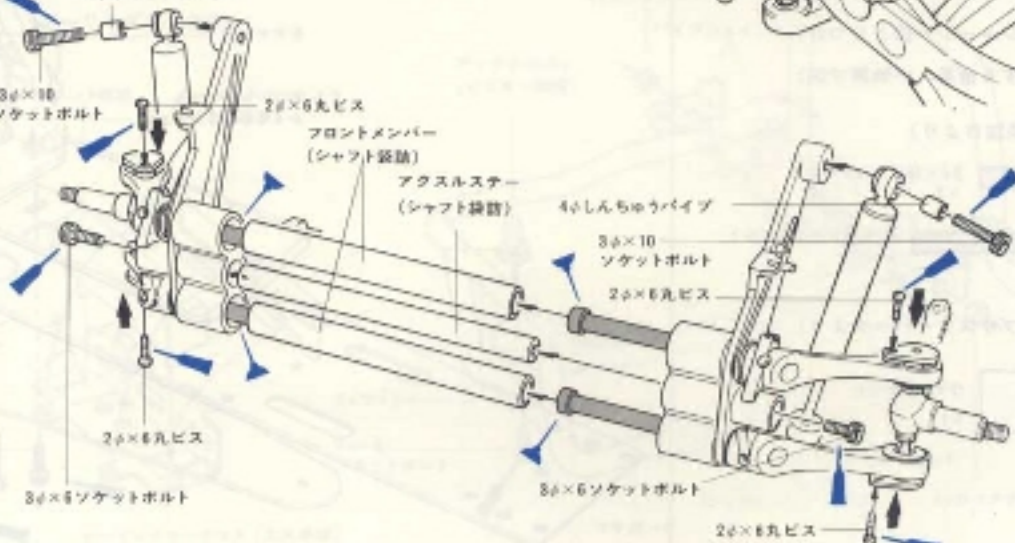


(左)



## 12 フロントメンバーのくみため

4φしんちゅうパイプ





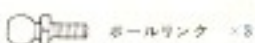
**13** (サーボセイバーのくみため)

(使用する金具、小物原寸図)

(ビニオン袋詰より)



(金具ブリストア、メタル袋詰より)



(ビス袋詰Bより)

**14** (フロントメンバーのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

(トーションバー袋詰より)



(工具袋詰より)

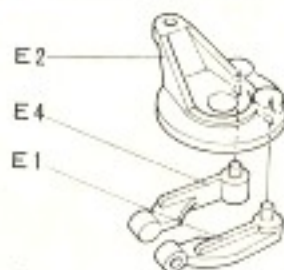


(ビス袋詰Aより) (ビス袋詰Bより)

**15** (フロントバンパーのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

(ビス袋詰Aより)

**13** サーボセイバーのくみため

リングをはめて下さい。

フロントポスト

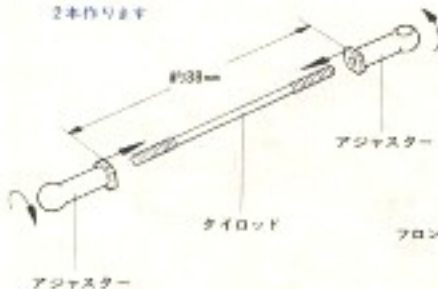
ボールリンク (金)

2mmナット

ラジオペンチ等でおさめます

**14** フロントメンバーのとりつけ

(タイロッド) 2本作り出す

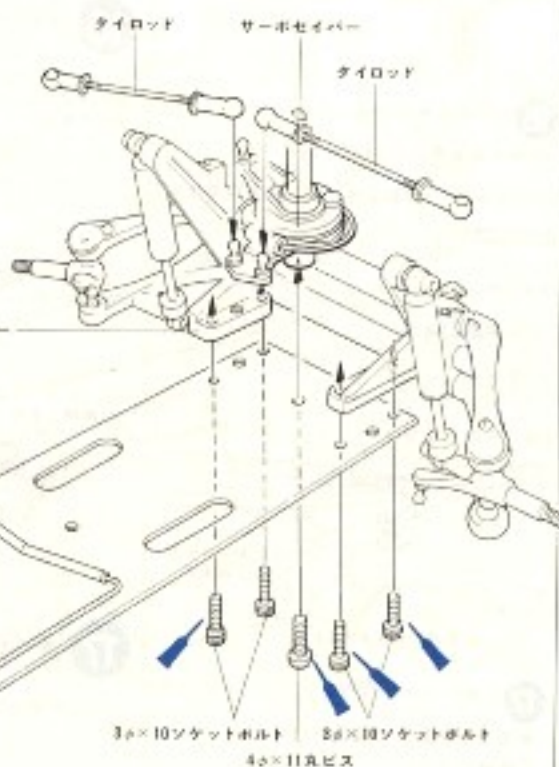
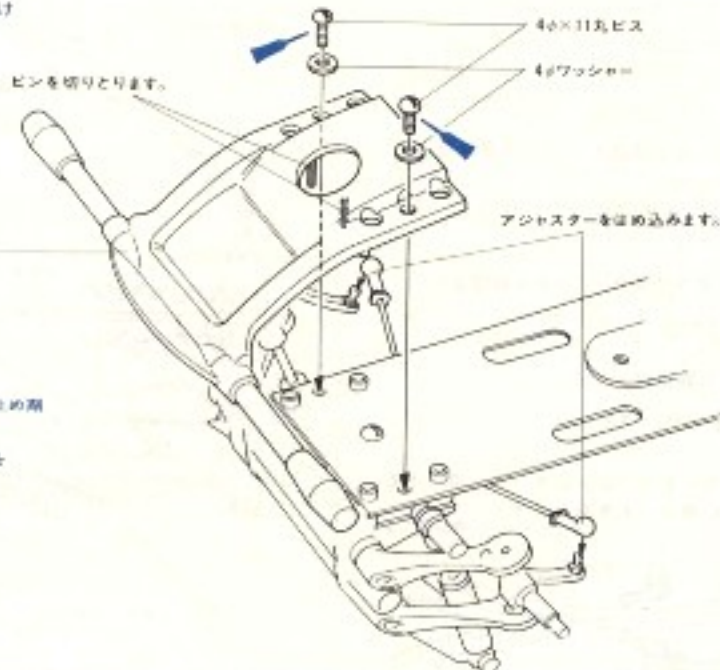
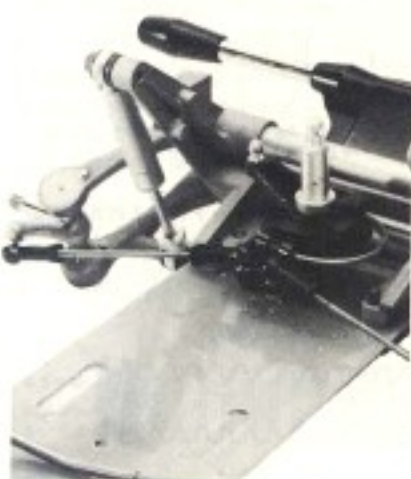


アジャスター

タイロッド

フロントメンバー

シャッシャー

**15** フロントバンパーのとりつけこのマークのビスナットはネジ止め前  
でネジロックして下さい。このマークの部分にはオイルを  
塗して下さい。

(メカボックスの組立てに入る前に)  
シャッシャーの前後ができたら1座乾電池  
でモーターを回転させてみましょう。  
軽くまわるかどうか確かめて下さい。

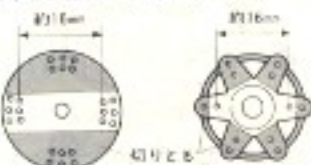




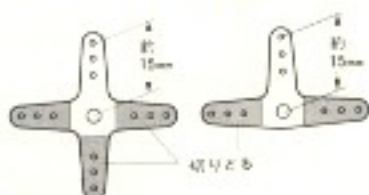
(ラジオコントロールメカ)  
このキットには2チャンネル、2サーボのデジタルポロポーショナル方式のラジオコントロールメカを使用します。ラジオコントロールメカに付属の説明書をよく読んでから作業を行ってください。

(サーボホーンの工作)  
サーボホーンは各メーカーにより色々な形がありますが、穴の位置を変えたり、切りとることにより使用できます。下図を参考にしてお使い下さい。

(スイッチ用サーボホーン)



(ステアリング用サーボホーン)



## 16 (スイッチのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

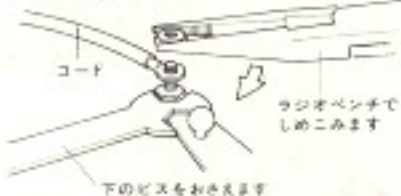
(トーションバー袋詰より) (工具袋詰より)



(ビス袋詰口より)



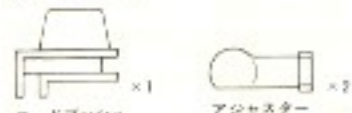
(コードのとりつけ)



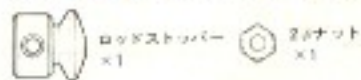
## 17 (サーボのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

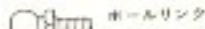
(工具袋詰より)



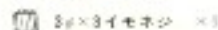
(ビニオン袋詰より) (ビス袋詰口より)



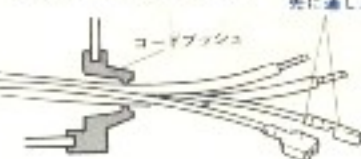
(金具ブリスター、メタル袋詰より)



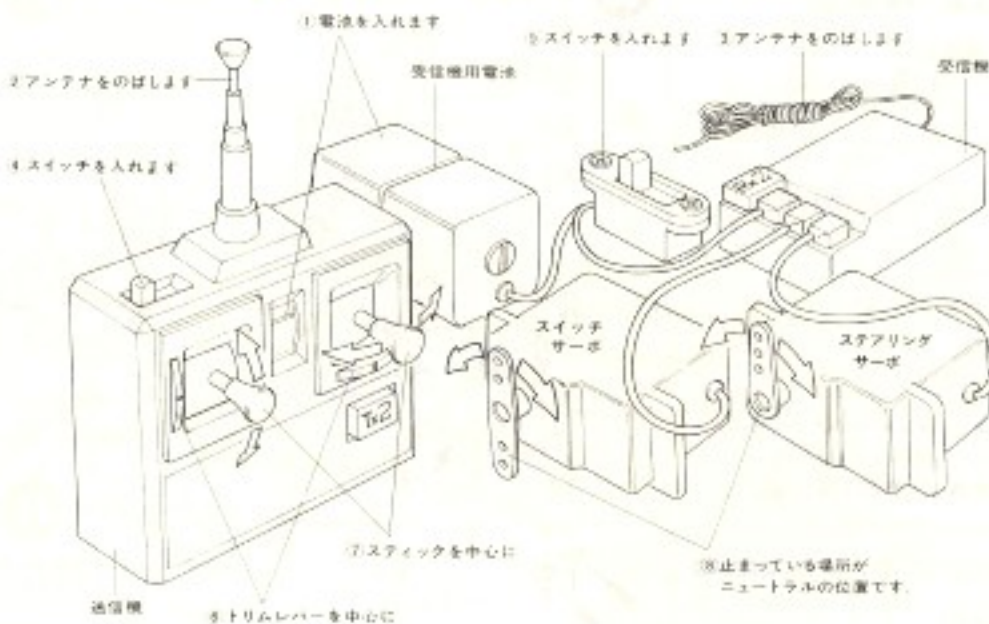
(ビス袋詰口より)



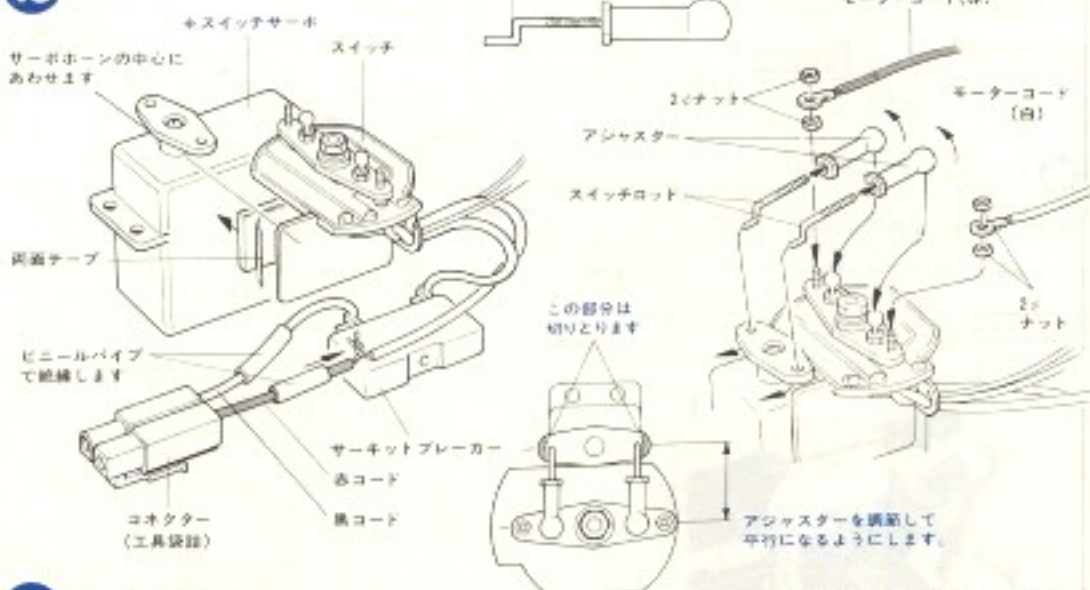
★コードプッシュにモーターコードと細い赤コードを通します。先に通します



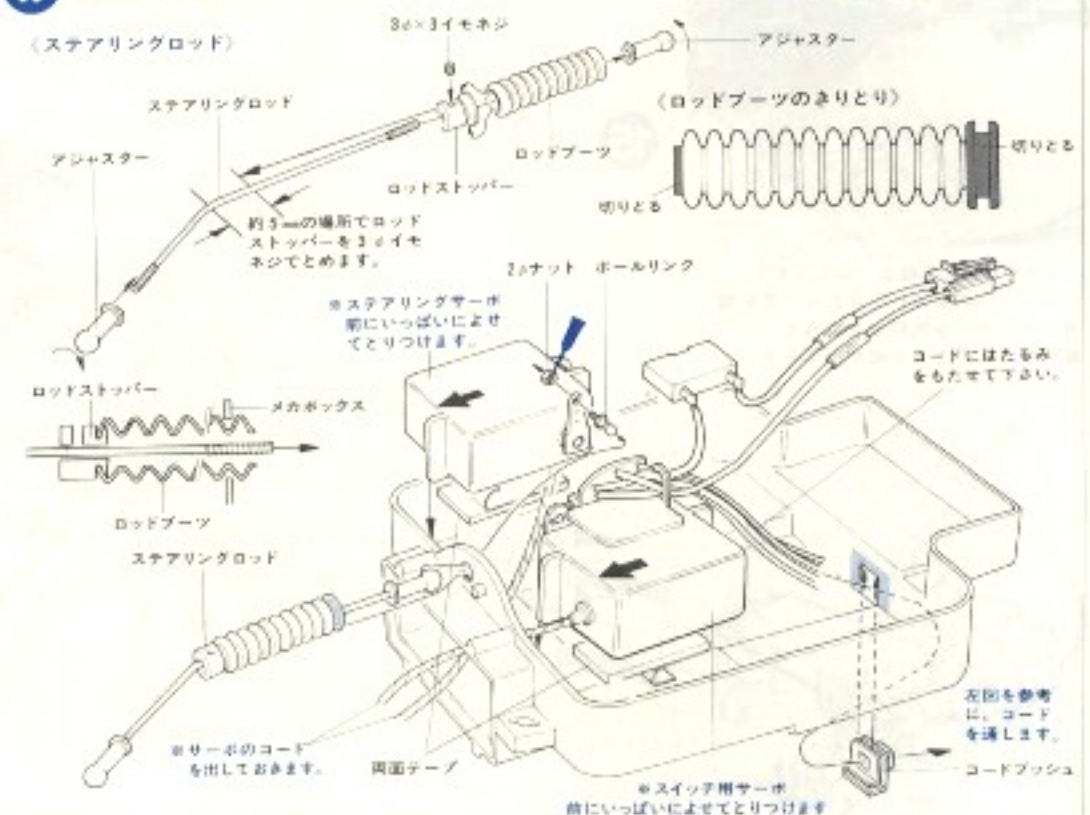
(ラジオコントロールメカ) 番号の順にラジオコントロールメカをチェックして下さい



## 16 スイッチのとりつけ



## 17 サーボのとりつけ





**18** (メカボックスリッドのくみ  
たて)

(使用する金具、小物原寸図)

(金具プリスターパックより)



(トーションバー袋詰より)



(カムロックのくみたて)



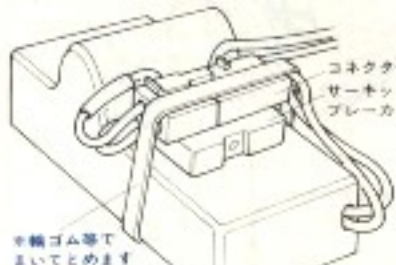
ネジリながら入れます。

**19** (カドニカバッテリーの搭載)

(カムロックのとめかた)

六角レンチ大を  
使います  
コードがかまないようにして  
メカボックスリッドをしめます。

(コネクタのとめかた)

★コネクタやサーキットブレーカー  
を輪ゴムで下図のようにとめておけば  
出し入れが楽になります。★輪ゴム等  
をいれてとめます**20** (レーザーケースのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

(ビス袋詰Dより)



(メカボックスの防水)

アンテナやコードの出し口はシリコン  
シール材で防水します。**18** メカボックスリッドのくみたて

(カムロック)

4個作ります

カムロック



カムロックスプリング

★スプリングをねじ込みます。

カムロック  
さし込んでまわします

メカボックスキャップ

※の部品はキットには含まれません。

受信機スイッチ  
とりつけビス

受信機スイッチ

**19** カドニカバッテリーの搭載この部分はシリコンシール材で防水して  
下さい。★コネクタはモーターの配線がすんでから  
さし込んで下さい。★カムロックは  
下まで差し込んでから  
90°まわしてとめます。★コードは電法の  
線を通します。★アンテナ線  
を出します。★受信機  
各メカのコードをとりつけ  
ておきます。★受信機のコネクタは確かめて  
さし込んで下さい。

メカボックスリッド

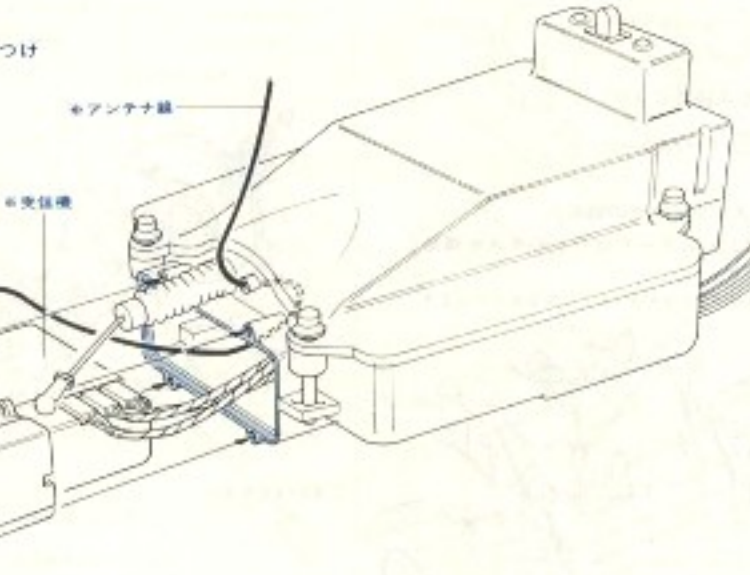
受信機用  
バッテリーケース★コネクタを  
まとめておきます★タミヤカドニカ  
7.2V又は5V  
向きに注意して  
下さい。ふちにグリスを塗っておくと  
防水できます。**20** レザーケースのとりつけ

★アンテナ線

レーザーケース

★受信機

2φ×6mmビス





## 21 (メカボックスのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

(金具プリスターパックより)



ウィールナット  
×1

(ビス袋番号より)

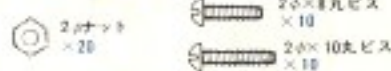


3x18ソケットボルト  
×1

## 22 (ホイールのくみ込め)

(使用する金具、小物原寸図)

(ビス袋番号より)



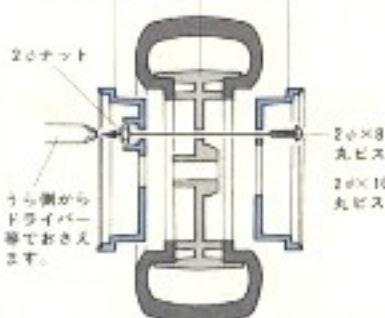
2xナット  
×20

2x8丸ビス  
×10

2x10丸ビス  
×10

(ホイール断面図)

前輪 F2 F3 F1  
後輪 R2 R3 R1



(タイヤの接着)

走行中のタイヤのはずれを防ぐため、組立ててから瞬間接着剤で接着して下さい。

瞬間接着剤をながし込みます。



## 23 (ホイールのとりつけ)

(使用する金具、小物原寸図)

(金具プリスター、メタル袋詰より)



オイルレスメタル  
×4

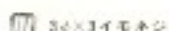
(ビス袋詰Aより)



4xロックナット  
×4

4xワッシャー  
×4

(ビス袋詰Cより)



3x3イモネジ

(ステアリングの調節)

アジャスターでロッドの長さを調節します。

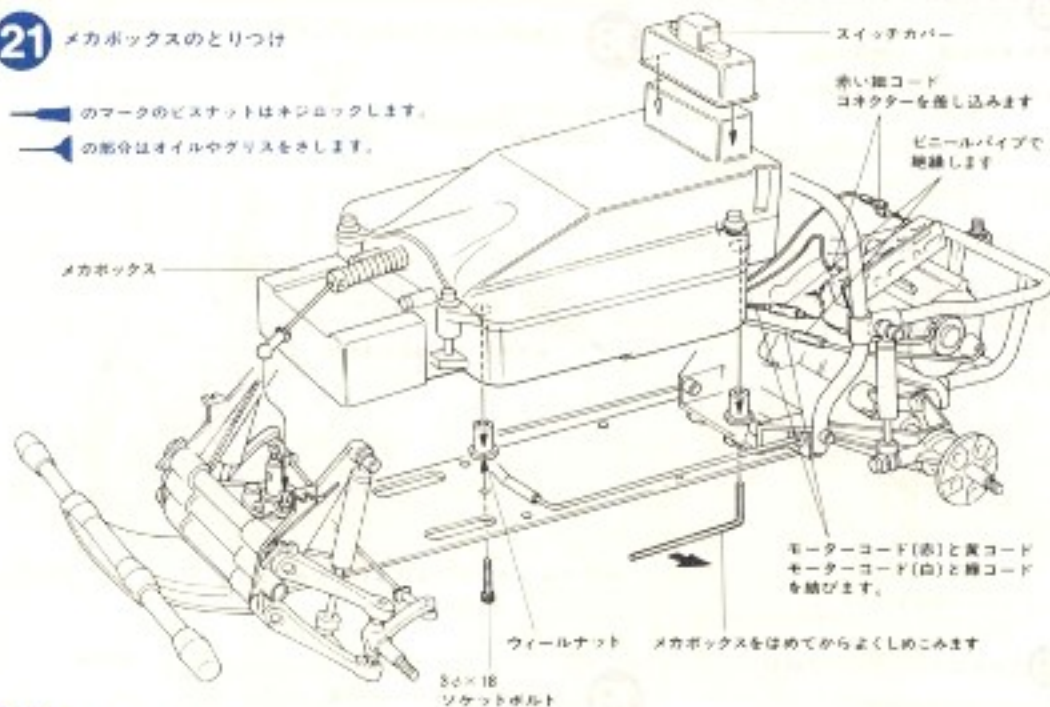
ステアリングがまっすぐになるようにします。



## 21 メカボックスのとりつけ

のマークのビスナットはネジロックします。

の部分にオイルやグリスをさします。



スイッチカバー

赤い配コード  
コネクタを差し込みます

ビニールパイプで  
絶縁します

メカボックス

モーターコード(赤)と黄コード  
モーターコード(白)と黒コード  
を結びます。

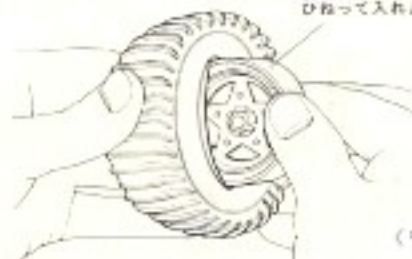
ウィールナット メカボックスをはめてからよくしめこみます

3x18  
ソケットボルト

## 22 ホイールのくみ込め

リヤタイヤにはR3をフロントタイヤにはF3を押し込みます。

図の形できし込み  
ひねって入れます。



(フロントホイール)

2個作ります

フロントタイヤ

F2

2xナット

シリコンシール剤を  
塗ります。

F1

2x8丸ビス

(リヤホイール)

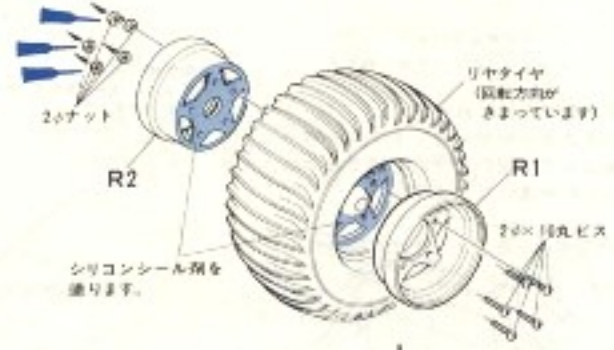
2個作ります

リヤタイヤには回転方向があります。図のように回転しますからR3を押し込むとき注意して下さい。

(リヤタイヤの回転方向)



前進



2xナット

シリコンシール剤を  
塗ります。

リヤタイヤ  
(回転方向が  
まっています)

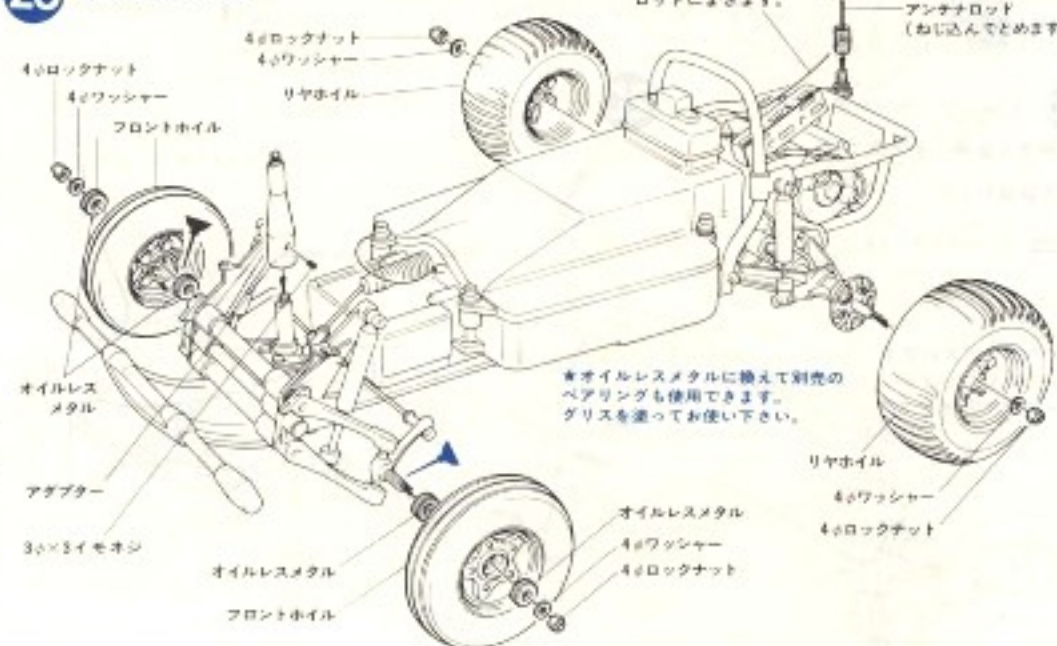
R1

2x10丸ビス

## 23 ホイールのとりつけ

※アンテナ線をアンテナ  
ロッドにまきます。

アンテナロッド  
(ねじ込んでめます)



4xロックナット

4xワッシャー

リヤホイール

4xロックナット

4xワッシャー

フロントホイール

※オイルレスメタルに換えて別売の  
ベアリングも使用できます。  
グリスを塗ってお使い下さい。

オイルレス  
メタル

アグプター

3x3イモネジ

オイルレスメタル

フロントホイール

オイルレスメタル

4xワッシャー

4xロックナット

リヤホイール

4xワッシャー

4xロックナット



## 24 (エキゾーストパイプのとりつけ)

(使用する金具、小物図寸図)  
(ビス袋詰Dより)



## 25 (ボディ内側のくみため)

(使用する金具、小物図寸図)  
(ビス袋詰Cより)



(ビス袋詰Dより)



## 26 (ボディマウントのとりつけ)

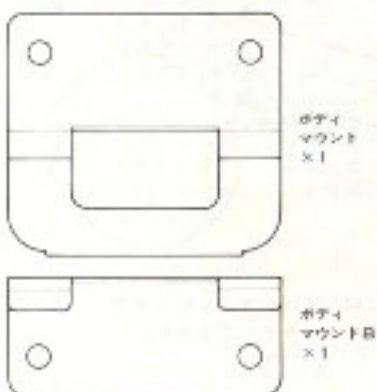
(使用する金具、小物図寸図)  
(ビス袋詰Cより)



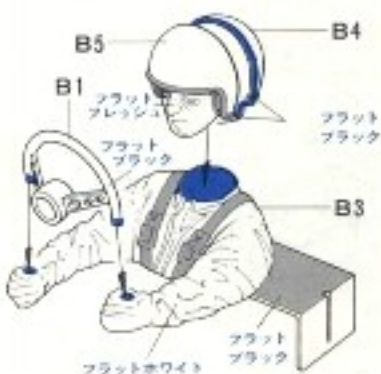
(ビス袋詰Dより)



(工具袋詰より)

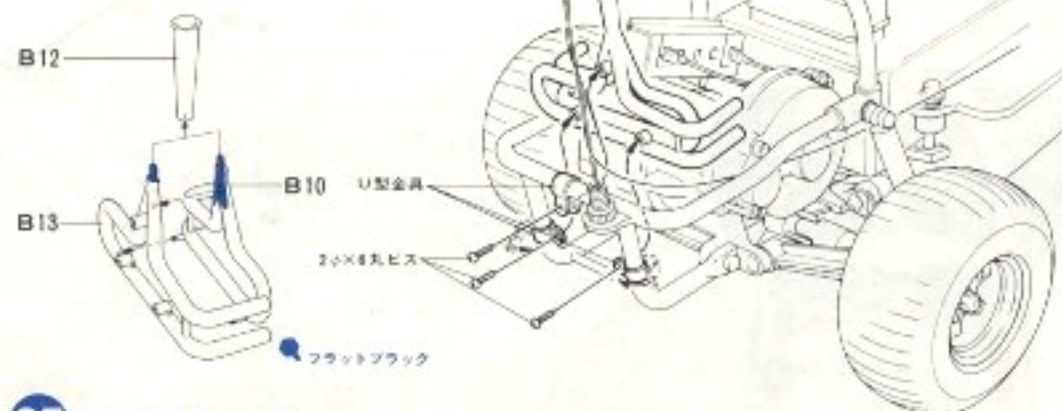


(人形のくみため)



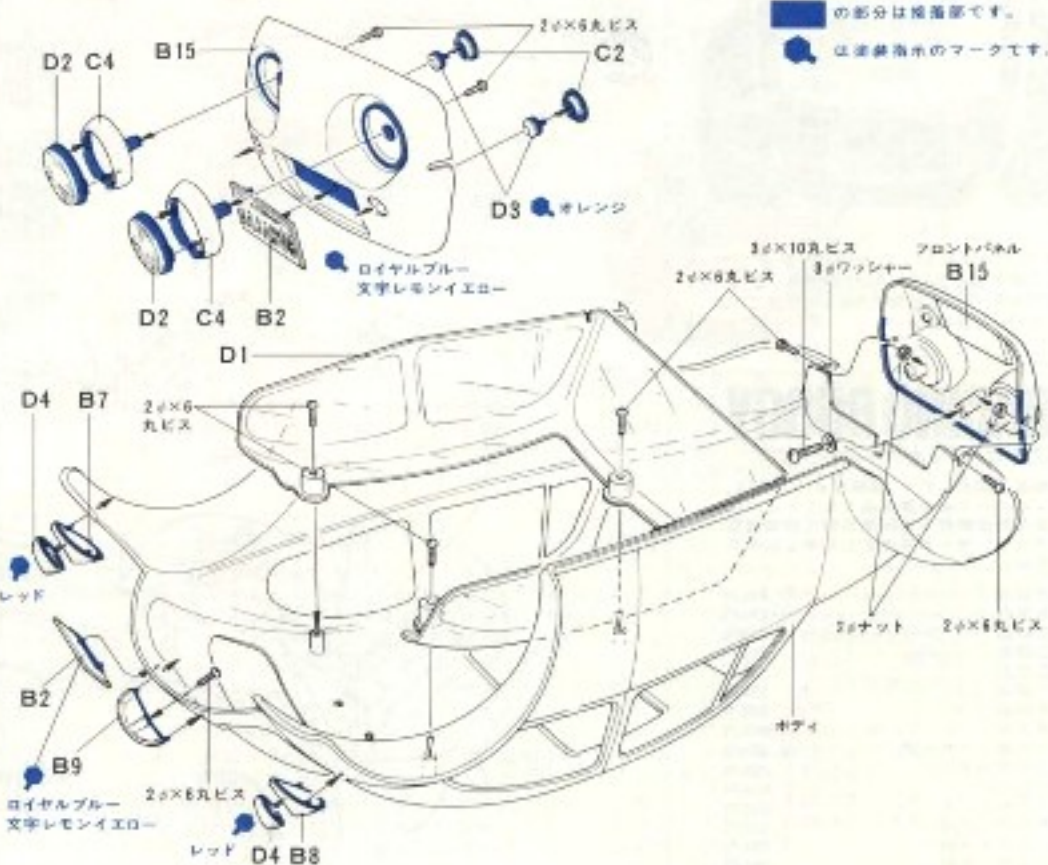
## 24 (エキゾーストパイプのとりつけ)

(エキゾーストパイプ)



## 25 ボディ内側のくみため

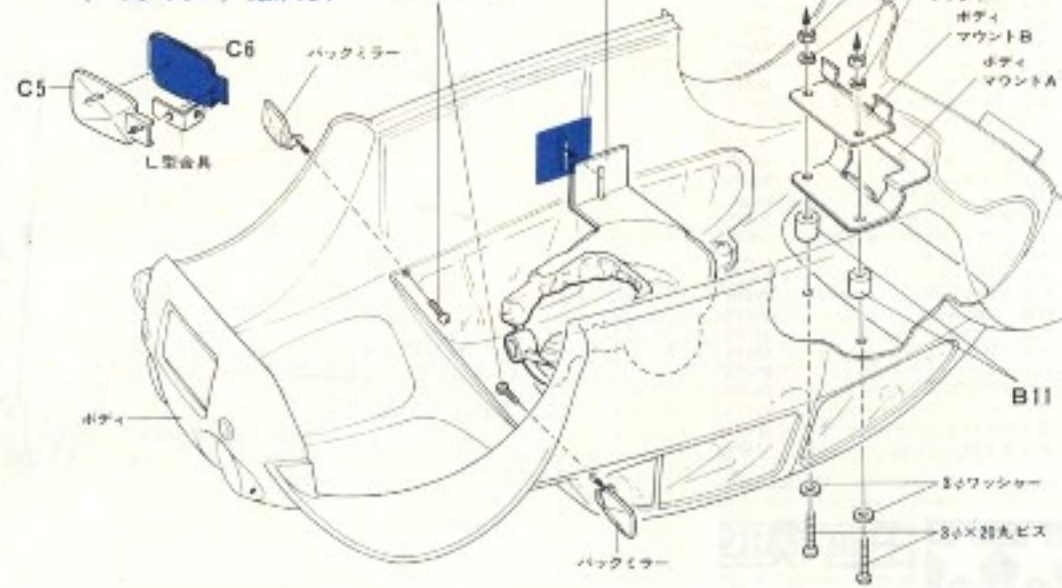
(フロントパネルのくみため)



の部分は接着部です。  
は接着指示のマークです。

## 26 ボディマウントのとりつけ

(バックミラー) 2個作りませ



## TAMIYA COLOUR

タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレータイプの塗料です。ミニタミヤモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。全24色。



## 27 (ボディのとりつけ)

(使用する金具、小物取寸図)  
(トーションバー袋詰より)



スナップピン×1



★部品請求にはこのカードが必要で、部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、郵便番号(できれば電話番号)を1字づつはつきりとお書き下さい。

## RACING BUGGY

1/10 ワーゲンオフローダー(RC)

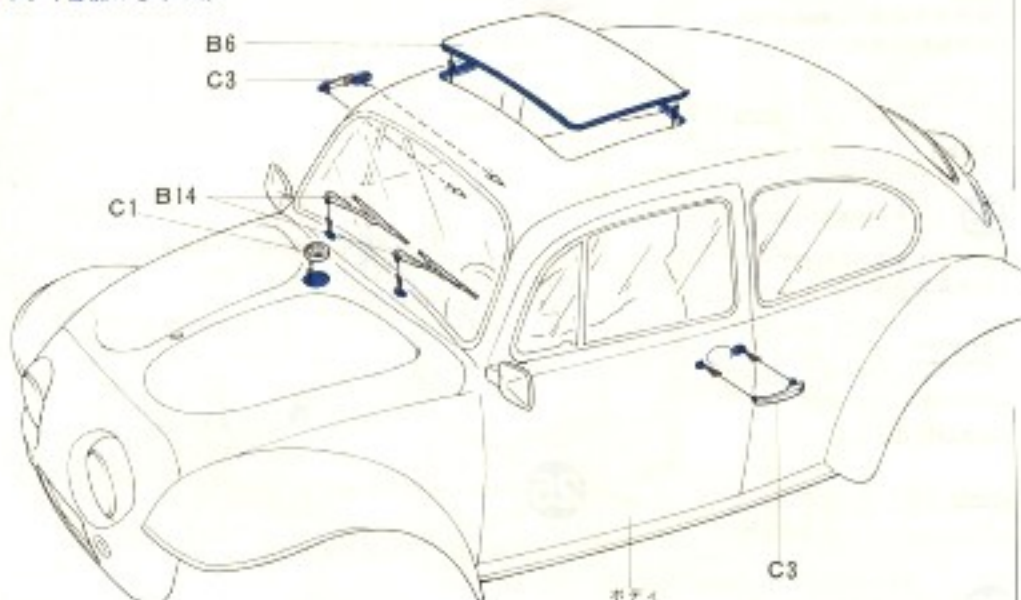
部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部番を丸でかこみ代金を現金書留又は郵便為替で田宮模型アフターサービス係までお申し込み下さい。

A 部品	850円
B 部品	800円
C 部品	400円
D 部品	700円
E 部品	350円
F 部品(2コ)	500円
G 部品(2コ)	600円
ボディ	2,000円
メカボックス一式	1,300円
リヤカード	700円
バンパー	600円
ホルシート	300円
ダンパー袋詰	1,500円
シャフト袋詰	1,000円
ビニオン袋詰	500円
トーションバー袋詰	500円
工具袋詰	700円
ビス袋詰A	350円
ビス袋詰B	400円
ビス袋詰C	400円
ビス袋詰D	450円
フロントタイヤ2コ	600円
リヤタイヤ2コ	800円
キヤケースL	800円
キヤケースR	800円
ユニバーサルジョイント2コ	1,500円
フロントアクスルL R	700円
フロントアームシャフト4本	500円
カムロック4コ	400円
ウィールナット2コ	300円
パイプジョイント4コ	300円
アップライトL R	500円
Qア、アッパーアームL R一式	700円
リヤアーム2コ	700円
スイッチ	1,300円
RS-540モーター	1,300円
65枚、70枚キヤ	400円
セメント砥粒	400円
メタル袋詰	500円
シャーシー	1,000円
アンダープレート	300円
ロールバー	450円
アンテナロッド	350円
マーク2枚	480円

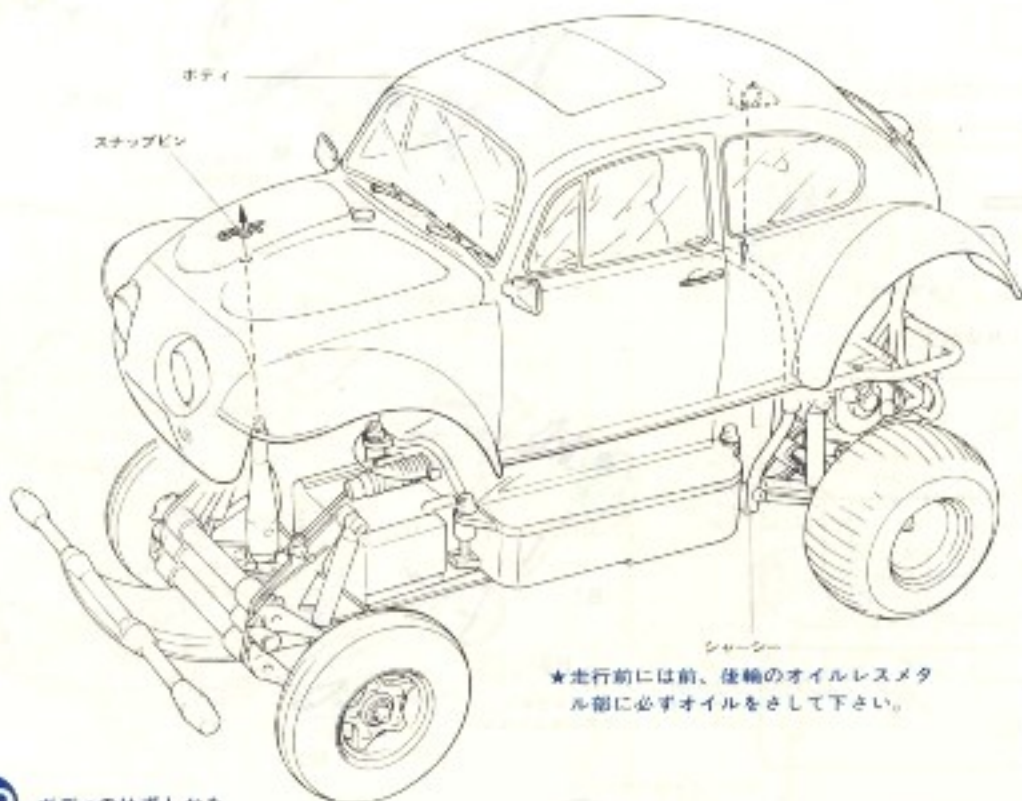
R311

KIT NO. 5016

## 27 ボディ部品のとりつけ

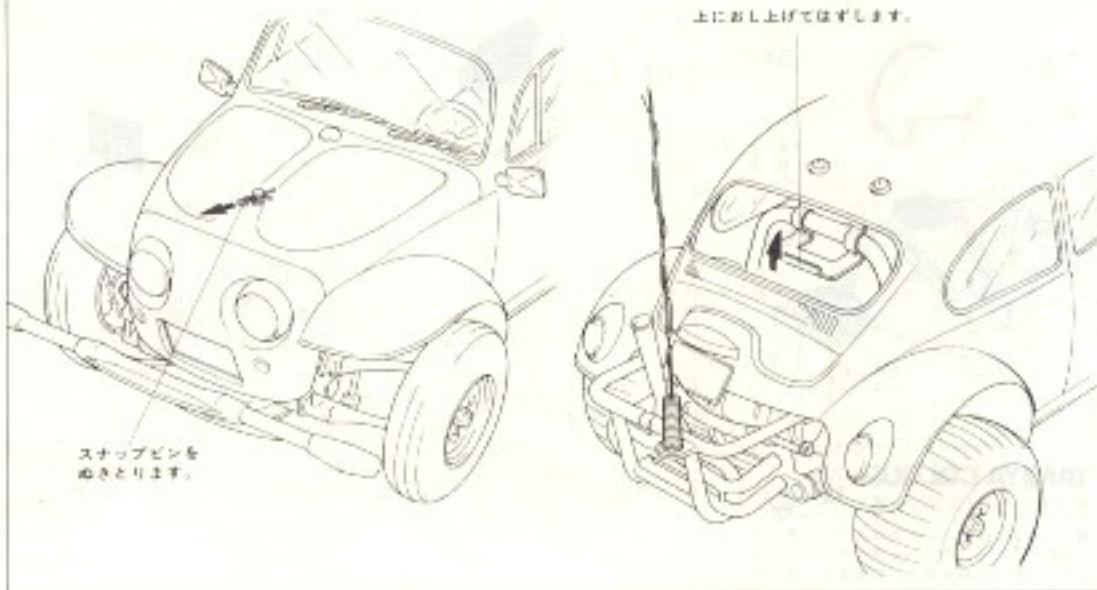


## 28 ボディのとりつけ



★走行前には前、後輪のオイルレスメタル部に必ずオイルをさして下さい。

## 29 ボディのはずしかた





## RACING BUGGY SAND SCORCHER



## 《走行》

## 《走行前の点検・チェック》

走行前には、必ず下図のポイントを点検して下さい。故障や事故を防ぐために欠かさないことです。車を台の上におき、タイヤを浮かして行うとよいでしょう。

★組立て後、最初に走らせる時、5分間ぐらいはスイッチやステアリングの調子を見ながらゆっくり走らせて下さい。

1 各部のネジにゆるみはないでしょうか。ゆるんでいるネジは、ネジ止め剤をつけもう一度締め込んで下さい。

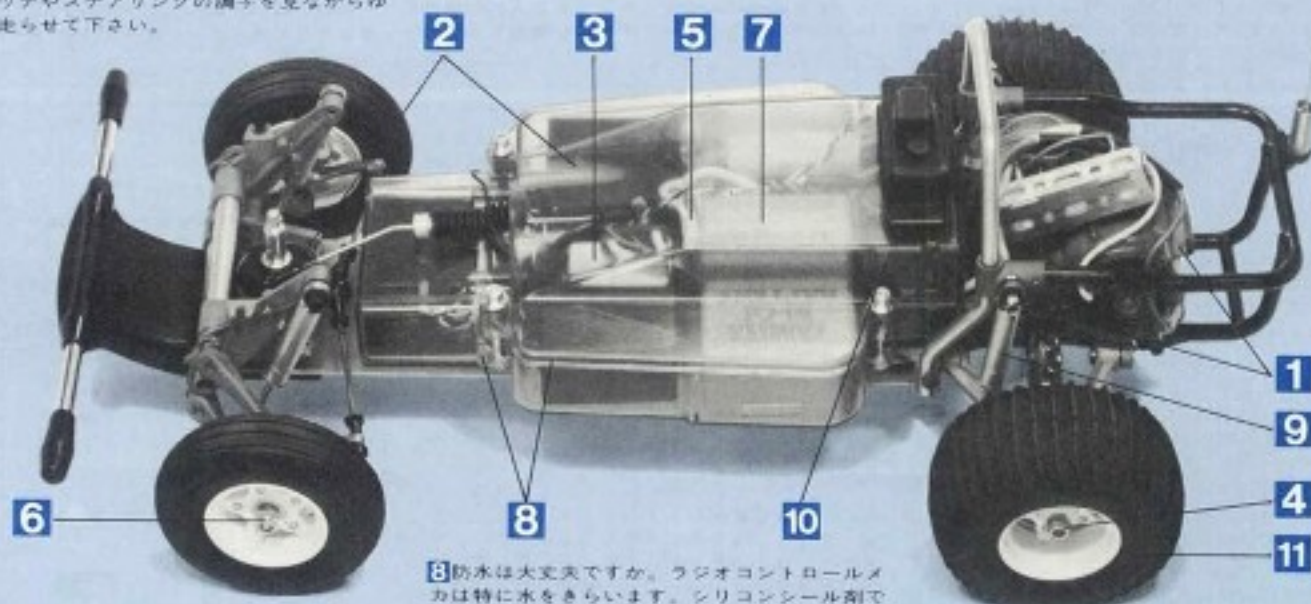
2 ステアリングは左右に確実に動きますか。

●車を手前から向こうに走らせ、直進を確認します。まがるようでしたらステアリングスティックのトリムレバーをまがる向きと逆に動かして調整します。

3 スイッチは低速、高速の切り替えが確実にできますかまた確実に止まるかも確認して下さい。

4 ホイール止め、ロックナットの締め付けは確實ですか。

5 コードが切れかかっていたり、ビニールがむけたりしていませんか。ビニールがむけているとショートの原因があります。ビニールテープなどを巻いて保護して下さい。



6 (前輪は) 軽くまわりますか。軸受けには必ずオイルをさして下さい。タミヤオイルスプレーが便利です。

7 カドニカバッテリーの充電は充分ですか。

8 防水は大丈夫ですか。ラジオコントロールメカは特に水をさらいます。シリコンシール剤で水の入りやすい場所をふさぐとよいでしょう。

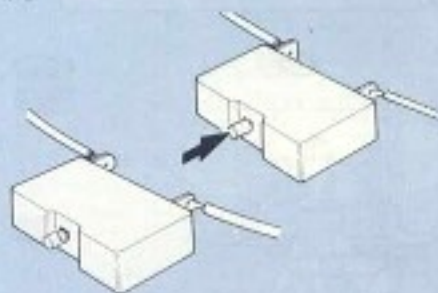
9 オイルダンパーは作動していますか。オイルダンパーのまきが悪いと、凹凸を吸収できずタイヤの駆動力が路面にうまく伝わりません。手で動かしじわっと元にもどればダンパーがまわっています。

10 送信機と受信機の電池は新しいものですか。

11 (後輪は) 軽くまわりますか。ギヤ、軸受けにはオイルスプレーで油をさして下さい。又モーターをはずせばギヤケースの中にもオイルをかけることができます。

## 《サーキットブレーカー》

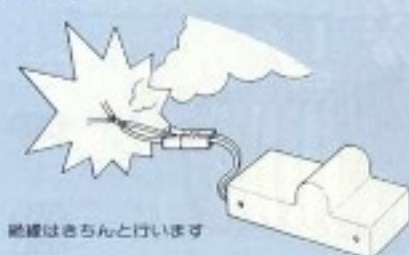
ショートなどにより大きな電流が流れた場合、サーキットブレーカーが働き、電流がカットされます。サーキットブレーカーはヒューズにかわる安全装置です。ヒューズと違い、ピンを押し込むことにより何回も使える機構を持っています。



## 《サーキットブレーカーの切れる原因》

サーキットブレーカーは通常の電流より大きな電流が流れたとき働きます。原因としては、コードのショートやモーターの焼きつき、後輪にかかる過大な負荷があります。原因をよくしらべてからサーキットブレーカーのピンを押し込みもとにもどして下さい。サーキットブレーカーが完全に冷えていないと、押し込めないことがあります。サーキットブレーカーが働いたときは少し時間をおいてから元にもどして下さい。

## 《ショート》



絶縁はきちんと行います

## 《ショート》

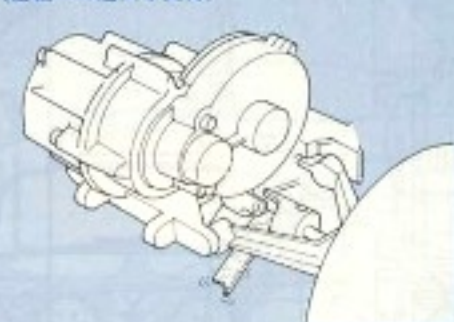
ショートは電池に負担をかけるもっとも重要な原因になります。走行前、走行後、十分にチェックして下さい。ビニールコードの皮がむけていたり、コードの結び目の絶縁には注意して下さい。低電圧用の抵抗のコネクターにも注意して下さい。

## 《モーターの焼きつき》

タイヤが回転できない状態(モーターが回転できない)で走行用スイッチが入っているとモーターが焼きつきことがあります。モーターが焼きつきと大きな電流を流さなければ回転できなくなり、スピードも落ち、電池の消費が早くなります。新しいモーターと交換して下さい。

★通常、モーターが回転できない状態でスイッチを入れるとサーキットブレーカーが働きます。

## 《後輪への過大な負荷》



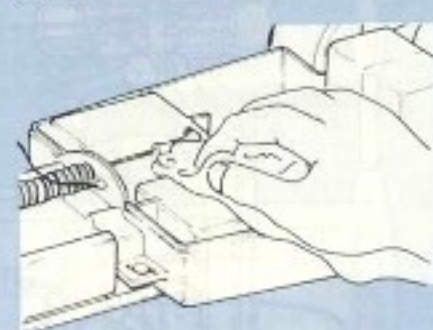
本片や小石がからまっていると負荷がかかります。又モーターの焼きつきの原因にもなります。

## 《後輪への過大な負荷》

後輪シャフトに草がまきついたり、ユニバーサルジョイントに小石がかんだりすると後輪の動きがわるくなり、モーターに負荷をかけます。走行前、走行後、特に注意して点検して下さい。

## 《防水》

バギーカーの場合、走行コースがオフロードということもあり、充分防水対策を行わなければなりません。ラジオコントロールメカだけでなく、モーターも水には弱いものですからギヤケースもシール材でカバーして組み立てるようになっています。その他よくあけるメカボックスのふた等は(シールなしでもほとんど水は入らない)グリス等をふちに塗っておけば開けることのシールは必要でなくなります。しかし、防水対策をしても少しは水が入ってしまうことがあります。走行後は必ずメカボックスの中に入りこんだ水をとり電池をぬき乾かしておきましょう。



走行後は中に入りこんだ水を乾かして下さい。

## 《走行および取扱いの注意》

ラジオコントロールバギーはモーターライズですから騒音の心配は少なくてすみます。しかし、7.2Vタミヤカドニカで走行させるため、かなりのスピードが出ますので取扱いは十分注意して下さい。

●送信機、受信機のアンテナは、正しくのぼす

●人ごみの中や小さな子供のそばでは走らせないで下さい。

●道路では絶対に走らせないで下さい。

●通信に注意して下さい。モデルが異常な動きをしたら、他の電波の混信により、コントロー



ルが歪められたことが考えられます。すぐに走行をやめ、サーボがスティックの動きに従って動くか、確認して下さい。

●草原などでは、長い草をシャフト類にまき込むことがあります。注意して下さい。

●河原など、モデルにくらべて大きな石のあるところで走らせるのは避けましょう。ボディをこわしたり、サスペンションをいためる原因になります。

●走らせない時は、走行用の電池、送、受信機の電池は必ず抜いておきます。

#### （走行させる時の手順）

1. 走行用の電池、送、受信機の電池をセットする。
2. 送信機のスティック、トリムレバーがニュートラル(中立)の位置にあることを確認する。
3. 送信機のスイッチを入れる。

4. 受信機のスイッチを入れる。
5. スティックを動かして、各部の動きを確認。

#### ★スイッチの順序



必要ならトリムレバーで調整する。  
★この手順は、必ず守って下さい。受信機のスイッチを送信機のスイッチより先に入れた場合、他の電波の混信によってモデルが暴走することがあります。

★走行を終える場合は、必ず逆の手順で行い、受信機、送信機のスイッチを切り、走行用電池送、受信機の電池もぬいておきます。

#### （走行後の整備）

走らせたあとは、必ずモデルの手入れをしましょう。いつまでも性能を保つために欠かせないことです。

●砂や泥、汚れなどはきれいにふきとっておきましょう。

●サスペンション、各ギヤ、軸受けなどには必ず油をさしておきます。

#### （注意）

ラジオコントロールメカニズム、モーターや電池は、水にぬれたり、湿気が多いと故障しやすくなります。水にぬれた場合は、よく水分をふきとり、風通しのよい所で乾かして下さい。

## 走らない時のチェックポイント

でき上がったモデルがうまく走らない、走っても途中から動きがおかしくなりました。そんな時のためのチェックポイントです。

### A. モーターがまわらず、まったく動かない。

**A-1** タミヤのバギーは、サーボの動きによってスイッチの断続をします。サーボは動いているでしょうか。サーボが動かない場合は、送信機、受信機のスイッチの入れ忘れ、電池の減りが考えられます。

**A-2** スイッチサーボが働いてもモーターがまわらない場合、走行用電池の減り、サーキットブレーカーの作動、配線のまちがいや断線が考えられます。

**A-3** モーターの故障、配線を外してモーターのリード線を直接電池につないで確認できます。モーターがまわるようでしたら、他の部分の故障が考えられます。

**A-4** ラジオコントロールメカニズムの故障、ご使用のメカニズムのメーカーのアフターサービスをご利用下さい。モーター及びラジオコントロールメカニズムは、非常に精密に作られています。ていねいに扱って下さい。

**A-5** サーキットブレーカーが作動していないでしょうか。作動していたら原因をしらべ、修理してからもともにもどして下さい。

### B. モーターはまわるが動かない。

**B-1** ギヤ類のとりつけのゆるみ、ギヤ固定用のイモネジを六角レンチで確実にしめて下さい。

**B-2** ホイルが確実ににはまっているか調べて下さい。又ホイル止めの4ヶ所ロックナットはゆるんでいません。ボックスレンチ等で確実にしめて下さい。

### C. スピードがおそい。

**C-1** 走行用電池の減り。

**C-2** スイッチがうまく低速から高速に切り変わるでしょうか。スイッチの高速、低速、停止、バックがうまく切り変わるよう、スイッチロッドの長さを取り付け位置を調整して下さい。

**C-3** シャフト類の焼きつき、油が切れた状態で回転させた場合には、シャフト類が軸受けと焼きつきを起すことがあります。各ギヤ、シャフト類、軸受けなどには、グリス、油を十分にさして下さい。なお、焼きつきを起しかけている時は異常な音がしますので、すぐに走行をやめ、グリス、油をさしてならし運転を行います。★完全に焼きつきを起して動かなくなってしまう場合、そのシャフトを抜き、焼きつき部分をヤスリなどでスムーズに回転するようにするまでていねいにけずって下さい。

**C-4** シャフトに草がからんだり、小石がはさまっていませんか。そのまま走らせるとモーターの焼きつきを起します。きれいにどりのぞいて下さい。

### D. まっすぐ走らない。

**D-1** ステアリングスティックを中立にしたときタイヤがまっすぐに前を向くでしょうか。ステアリングロッドの長さを短めたり、伸したりして調整して下さい。

### E. うまく曲らない。

**E-1** ステアリングサーボの動きを確認して下さい。動きが悪い場合は、送信機または受信機の電池の減りが考えられます。

### F. 前後進が逆になる。

**F-1** スイッチのコードとモーターのリード線のつなぎ方が正しいか確認して下さい。

**F-2** スイッチと走行用電池の配線を確認して下さい。

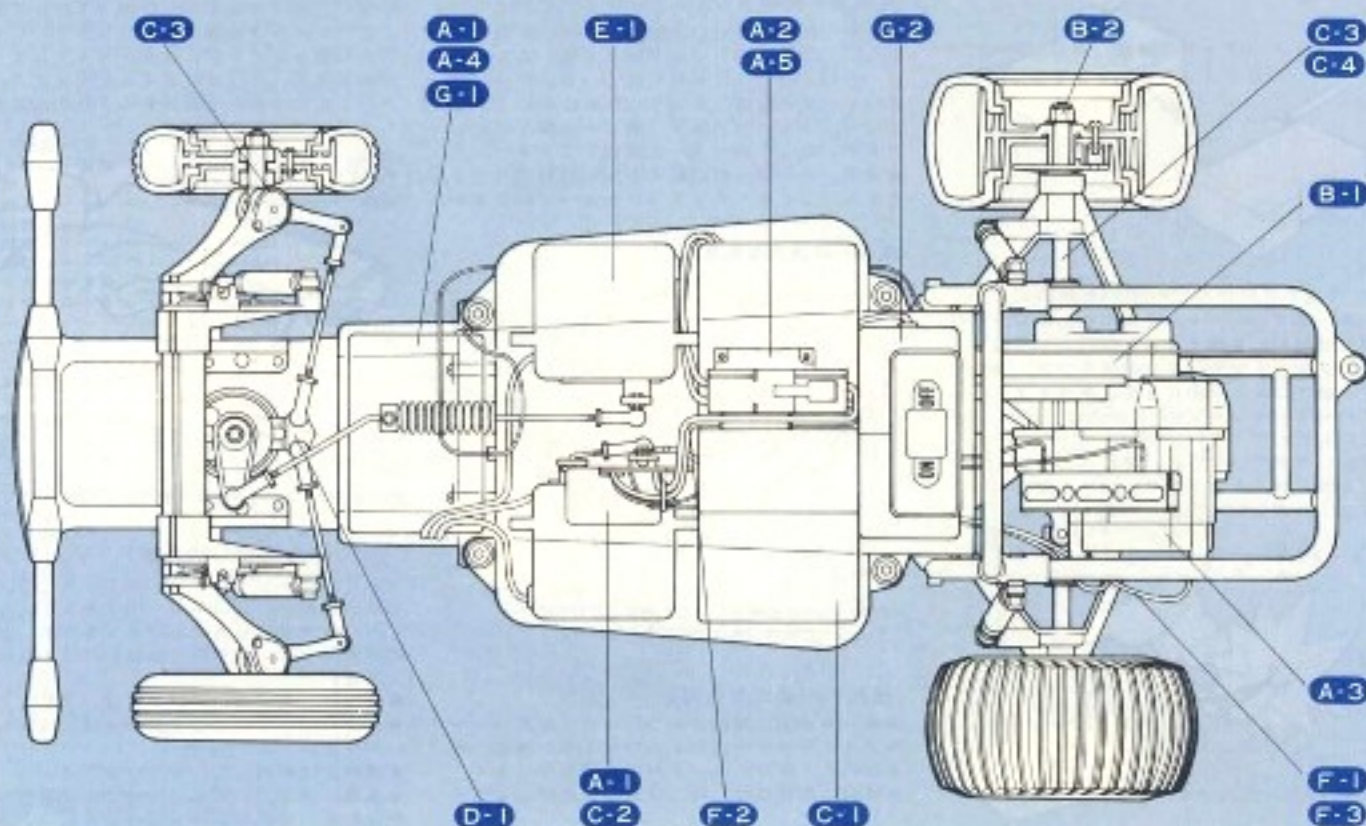
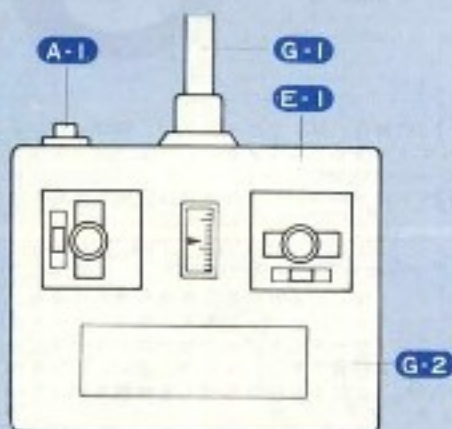
**F-3** 前後進スティックを上にしたとき、バックするようでしたら、モーターとスイッチの配線を逆にしてください。

### G. コントロールが乱れる。

**G-1** 送信機、受信機のアンテナは正しく伸ばされているでしょうか。

**G-2** 送信機、受信機の電池の不足

**G-3** 他の電波の混信。





# PAINTING & MARKING

## 〈ワーゲンオフローダーの塗装〉

オフロードレース用に大改造が加えられた「かぶと虫」、ワーゲンオフローダーは、プライベートドライバーたちのカラフルな塗装が楽しみです。塗装の方法にきまりはありません。参加車のカラーリングはさまざまです。右図の塗装例を参考に、あなたもワーゲンボディの特徴を生かした楽しいカラーリングをくふうして下さい。ゼッケン用のナンバーも0～9まで入っていますから、自由なマーキングに便利です。なお、塗料はプラスチックモデル用をご使用下さい。

★オリジナル塗装を楽しもう。

〈ボディに使用できる塗料〉

レーシングホワイト	TS-7
イタリアンレッド	TS-8
ブリティッシュグリーン	TS-9
フレンチブルー	TS-10
マルーン	TS-11
オレンジ	TS-12
クイヤー	TS-13
ブラック	TS-14
ブルー	TS-15
イエロー	TS-16
アルミシルバー	TS-17
メタリックレッド	TS-18
メタリックブルー	TS-19
メタリックグリーン	TS-20

## 〈エアゾールスプレーの使い方〉

新聞紙、ボール紙、部品の入っていたビニール袋、ボロボロ、セロテープ等用意して下さい。風の無い日陰で新聞紙を用意してほりの立たないようにしてから塗装します。スプレー缶を上下によく振って缶の中の塗料をかきまぜてから塗料の混ざり具合を見るためにためし吹きして下さい。ためし吹きは、不用のボール紙やお菓子の箱などを使います。塗装するボディから20cmぐらい放して吹付けます。スプレー缶を同じ方向にすばやく動かして、シュッシュッと吹付けて下さい。塗装するボディより一回り大きなボディを吹付ける気持で塗装するのがコツです。

★エアゾールスプレーはカンに印刷された注意をよく読み正しい使いかたをして下さい。火の気のある場所での塗装は絶対にしないようにして下さい。

## 〈マスキングのしかた〉

ボディ全体の塗料がよく乾いてからマスキングテープをボディの端から順序よくはります。2H程度の鉛筆を使い自由な形をマスキングテープに下書きして下さい。下書きの線にそってデザインナイフで切り込みを入れます。テープをはがした後はよくおさこんでおくこと。テープのふちが十分に密着しているのを確かめてから〈エアゾールスプレーの使い方〉と同じ方法で塗装します。すばやく、うすく、2回塗りをして下さい。

## 〈マークのはりかた〉

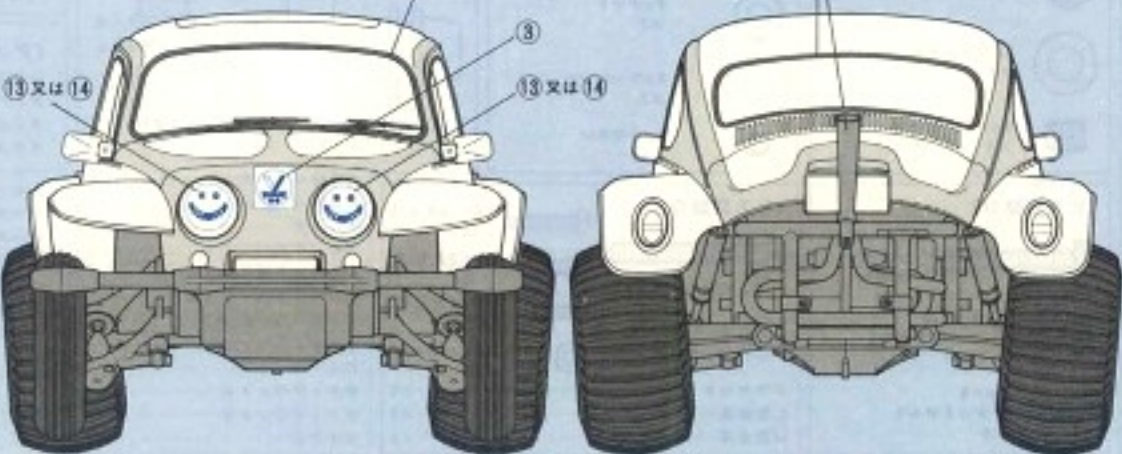
マークは、ステッカー式のシールになっています。

①できるだけ余白を残さずに、印刷された部分を切り抜いて下さい。番号のついたマークは切りとってしまうとまちがえやすいですからはる順に切りとって下さい。



## 〈塗装例〉

- ① イエロー
- ② イタリアンレッド



②裏紙の端の部分少しはがし、指定されたボディの位置にはりませ。裏紙をつけたまま位置をあわせて下さい。



③少しづつ裏紙をはがしながら場所がずれたり、マークの中に気泡が残ったりしないよう注意しながらはがして下さい。



裏紙を一度に全部はがしてはるのは、しわがでたり気泡が残ったりしやすくなります。



# PARTS

★ビス、ナットは多少  
あまります。予備とし  
てお使い下さい。

## D 部品×1



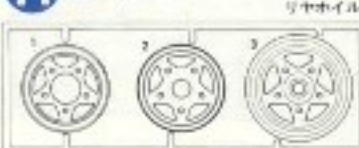
## C 部品×1



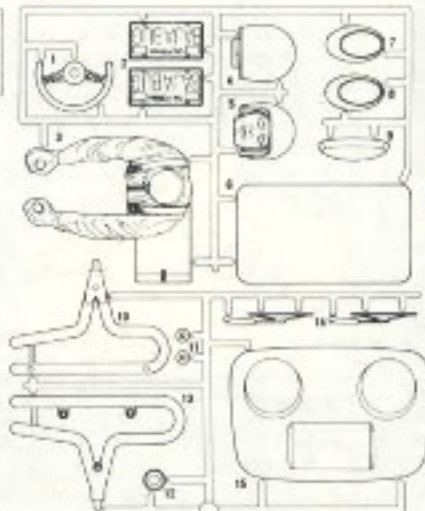
## F 部品×2



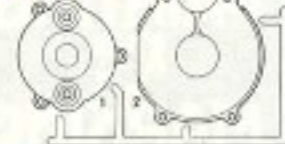
## R 部品×2



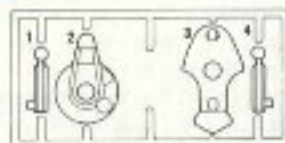
## B 部品×1



## A 部品×1



## E 部品×1

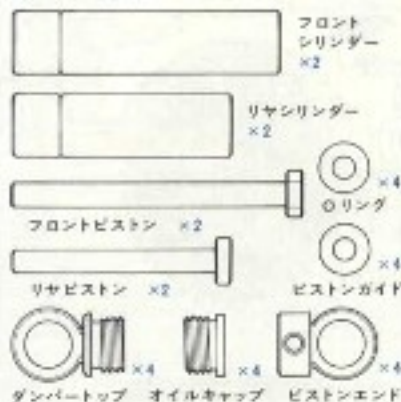


ボールシート ×1

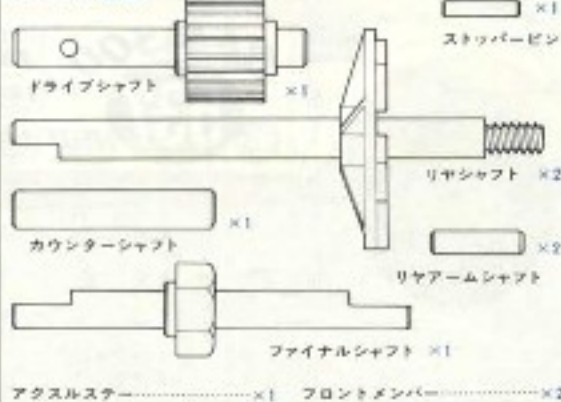


### (金具小箱)

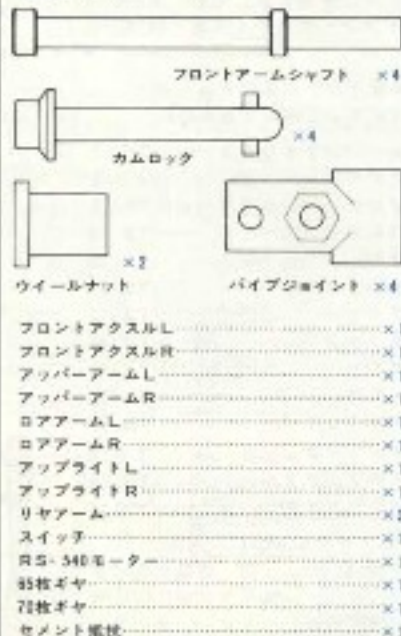
#### (ダンパー袋詰)



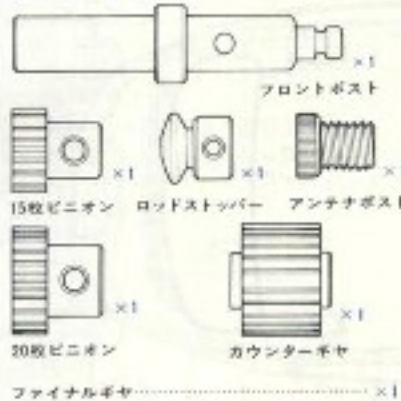
#### (シャフト袋詰)



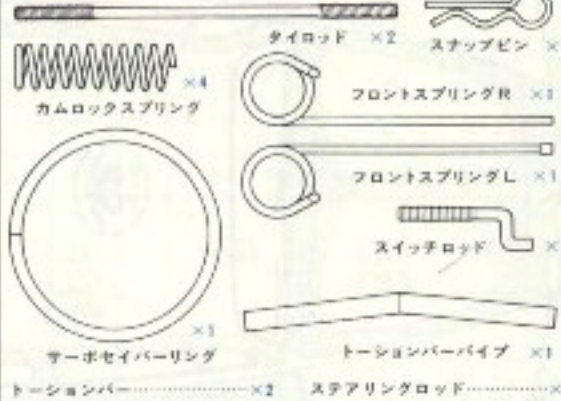
### (金具プリスターパック)



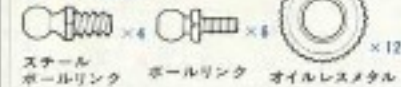
#### (ピニオン袋詰)



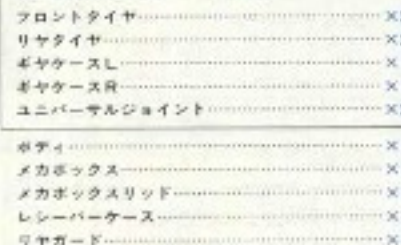
#### (トーションバー袋詰)



#### (メタル袋詰)



#### (タイヤプリスターパック)



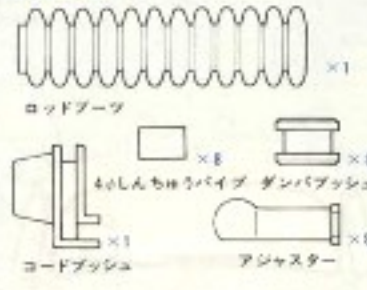
#### (ビス袋詰A)



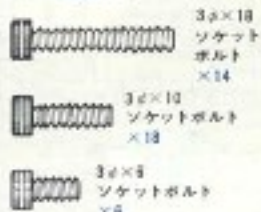
#### (ビス袋詰C)



#### (工具袋詰)



#### (ビス袋詰B)



#### (ビス袋詰D)



#### (ダンパーオイル袋詰)

